思春期から更年期までの女性の健康に関する研究

看護学科　助産・母性看護学領域　　前田 尚美　准教授

Q. どのような研究をされていますか？

A. 北海道における妊娠高血圧症候群について、レセプト（診療報酬明細書）データを用いて、罹患率や医療圏ごとの受診状況を明らかにする研究を行っています。全国レベルのデータベース（NDB）を活用し、地域ごとの違いや傾向を把握することで、看護職が地域の特性に応じたケアや支援を行うための視点を得ることを目指しています。こうしたデータの分析結果を、現場の看護や教育へとつなげていきたいと考えています。
また、助産学専攻の学生によるカリキュラム評価にも取り組んでおり、学生自身の学びの気づきを通して、より実践力を育む助産師教育のあり方を探っています。

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 女性の健康に関わる様々な研究を行ってきました。思春期における性被害防止教育では、特に保護者の認識に着目し、インターネットや SNS を介したリスクに対する危機意識や、家庭内での対応の実態を明らかにしました。また、育児期の女性の QOL（生活の質）に関する研究では、積雪寒冷地に暮らす母親を対象に、育児環境や支援ニーズを調査し、地域の特性に応じた支援の必要性を示しました。さらに、北海道における「拓殖産婆」の活動に関する歴史的研究にも取り組み、戦前・戦後の地域母子保健活動を掘り起こすことで、助産師が地域社会で果たしてきた役割や実践の意義を明らかにしました。
これらの研究は、女性のライフステージに応じた課題に対し、臨床・教育・地域の多様な視点からアプローチすることを目指して行ってきたものです。

Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 今後は、更年期の女性の健康に関する研究に取り組みたいと考えています。妊娠や出産を含む周産期の健康状態は、その後の更年期における心身の変化に影響を与える可能性があるとされており、ライフステージを通じた健康支援の重要性が増しています。
これまでのレセプトデータを用いた研究で得た、妊娠期に関する知見も踏まえながら、将来的には更年期女性の健康課題を多面的に捉え、支援のあり方を検討していきたいと考えています。
あわせて、こうした研究成果を助産師教育に活かし、学生がライフコース全体を見据えた視点を持って支援にあたれるよう、教育内容の充実にも努めていきたいと思っています。

もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

- 助産・母性看護学領域 URL
  https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_bosei.html
- 大学院保健医療学研究科看護学専攻女性健康看護学 URL
  https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmcr00000013wl.html